

I 学校の概要

課題解決型学習実践モデル校事業 高松市立庵治小学校

◆児童及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
1学級 14名	1学級 16名	1学級 26名	1学級 20名	1学級 30名	1学級 25名	4学級 8名	10学級 139名

○教員数 15名

◆学校の特色

庵治町は美しい山と海に囲まれ、漁業や石材業など特色ある産業が営まれている。また、地域にはイサムノグチ、流政之美術館などがあり芸術家や庵治石の伝統工芸士、新しい産業に挑戦している漁師も居る。このように、庵治には豊かな自然や産業だけでなく、それらを支えるために熱い思いをもった人がたくさん居る魅力ある町である。

庵治小学校内には、入学記念石碑や石のベンチや郵便ポストなど石でできたものがたくさんある。また、敷地内には様々な種類の生物が生息している自然豊かな学校である。子ども園、小学校、中学校が隣接しており、多くの子どもたちが知り合いで異年齢交流もスムーズに行えている。

II 研究主題等

研究主題 庵治の宝物を未来へつなごうとする児童の育成
～調べ・考え・発信する子ども～

◆研究主題設定の理由

児童は生まれ育ったこの地域に関心が高く、将来の夢に漁師をあげる子どももいる一方で、身近であるために、そのすばらしさに気付いておらず、当たり前のこととして受け止めているように感じる。昨年度5月に行ったアンケートでは児童の9割が庵治が好きと肯定的に答えているが、具体的な良さはあまり書かれておらず、漠然と庵治が好きと思っている児童が多いと分かった。そこで、実感をもって庵治が大好きになれるように豊かな体験活動を行い、地域に貢献したい、将来地域を盛り上げたいという児童を育てていきたいと考えた。このような児童を育てるためには、体験活動を通して庵治の良さを学び課題意識をもって主体的に取り組む探究的な学習が最適である。例えば、ハマチの養殖場を見学して庵治の漁業の良さと課題を調べて見付け、地域のために自分ができることを考え、実践していくといった学習を積み重ねていく。

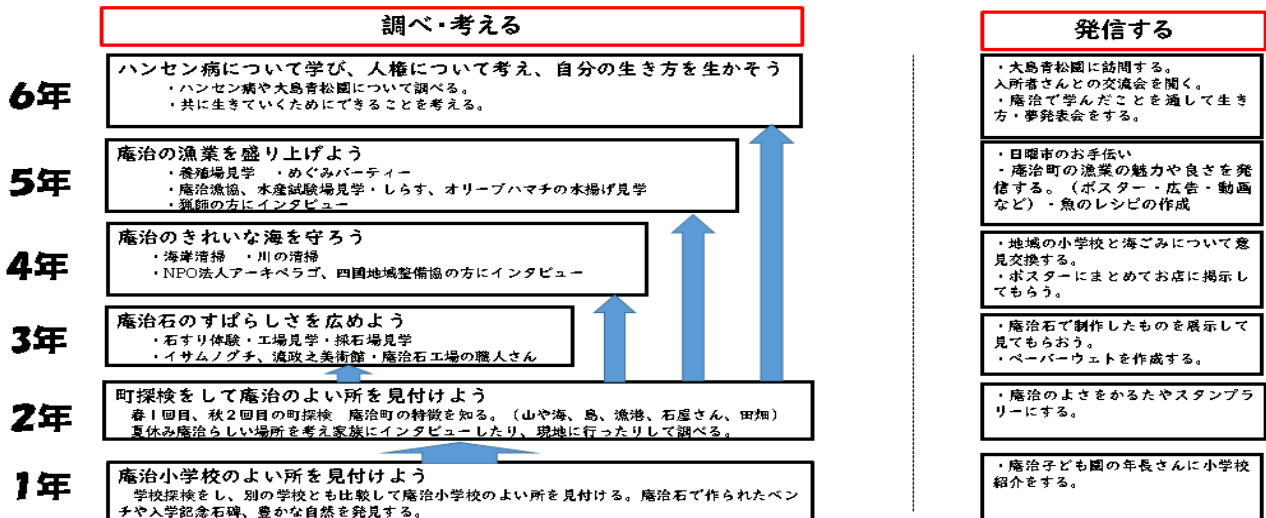
そこで、庵治のすばらしさをたくさん見付けて大切にしようとする児童の育成をめざし、研究主題を「庵治の宝物を未来へつなごうとする児童の育成」とし、副主題「調べ・考え・発信する子ども」を設定した。本校では、探究的な学習の課程にある課題設定と情報収集を「調べる」、整理・分析を「考える」、まとめ・表現するを「発信する」と捉えている。

◆研究内容及び方法

(1) 6年間を通した豊かな体験活動と育成をめざす資質・能力

1年生では、別の小学校と比較して庵治小学校の良い所を見付け、2年生では小学校から地域へと視点を広げ庵治町の良い所を町探検で見付ける。この2年生での学びが3年生から6年生までの総合的な学習の時間の土台となっている。町探検で見付けた石屋さんを3年生が、近くにある海や島を4年生と6年生が、魚屋さんや漁港を5年生がより深く学んでいく。このような6年間の学習を通して育成をめざす資質・能力を、庵治の良さや現状を理解する「理解する力」、庵治の良さや課題解決に向けて自分が考えたことを伝える「伝える力」、庵治や自分の良さを理解し、できることをしようとする「庵治に貢献しようとする力」と考えている。庵治のために貢献することができたと満足感をもてるようにし、その満足感や達成感を積み重ね、どんどん庵治を好きになっていって欲しい。

体験学習 各学年のつながり



(2) 自ら欲する体験活動を多く行えるような学習展開

教師から「しらすの水揚げを見に行こう。」と投げかけるのではなく、児童が「この前、漁港の見学に行って、～がおもしろかった。もっと知りたいから、しらすの水揚げが見たい!」と思えるような体験活動にしたい。そのために、今年1年間にどんな学習をしていくのか教師と児童が共有する年間計画を作成したり、児童が「〇〇してみたい。」と自ら進んで行えるような教材との出会わせ方を大事にしたりしたい。



(3) 相手意識・目的意識をもって発信し、その結果を検証して次時の活動に生かす

自分たちが調べた庵治の課題について、解決に向かうように発信してきたことに成果がみられたのかどうかを検証し、その検証から課題を見付け次の活動につなげたい。例えば、地域の人に庵治の魚をもっと食べてもらうために、庵治祭でしらすやエビの販売した後、「完売した商品もあるけど、売れ残ったものもあるな。次はもっと～するのはどうかな。」と結果を検証し、次の活動に活かす。この「次はもっと～したい。」は前述の児童が自ら欲する体験活動にもつながると考える。



- [研究方法] ・指導案検討や模擬授業、研究授業、研究討議から成果と課題を考える。
 ・教員と児童のアンケートを実施、分析し、教員間で共有する。

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (児童質問紙) 庵治が好きですか

指標 「①大好き+②好き」の合計

5月調査
97%

目標値
100%

11月調査
98%

指標の達成に向けた実践

豊かな体験、本物に触れる活動を充実させる

(1) 庵治小学校のよい所を見付けよう (第1学年)

比較することで庵治小の良さを実感する

街中にある小学校の校庭探検を行い、庵治小学校の校庭と比較することで、本校の良さである草花や木がたくさんあること、バッタや鳥など生き物もたくさんいることを実感することができた。街中にある小学校でもバッタを捕まえたいと児童は言っていたが、校庭に草が少なく、バッタを見付けられなかったことから、あたり前のようにある豊かな自然も庵治小の良さであると感じたようだ。庵治が大好き、好きと答えた理由の中に、「大きいバッタがたくさんいるから。」「トンビがとんでいるから。」と何が好きなのかを具体的に書くことができていた。



【庵治小学校 校庭探検】

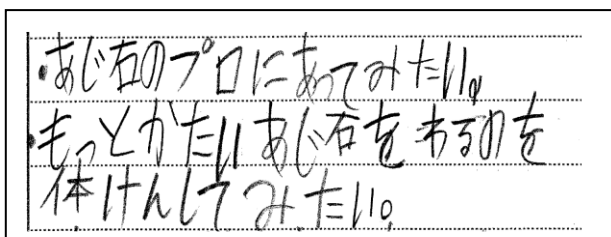


【街中にある小学校 校庭探検】

(2) 発見！発信！庵治石の魅力！ (3学年)

児童の思いや願いから体験活動を行うことでどんどん庵治を好きになる

庵治石に関わる人や物に多く出会えるように、児童の行ってみたい所、会ってみたい人、体験したいことなど児童の発言(資料①)を整理しながら、一緒に学習計画を考えた。まず、どこにどんな庵治石の作品があるのかを探したいという児童の思いから町探検を行った。「加工している庵治石はどこでとれるの?」「自分たちも庵治石を割ってみたいな。」「庵治石の職人さん(伝統工芸士)に会ってみたい。」と児童の思いや願いがどんどん膨らんだ。この思いや願いをもとに見学、体験場を教員が調整し、体験活動を行った。自ら欲する体験活動になっており、児童は自分の思いが実現していくことで、より庵治石に興味をもてたと感じる。庵治が大好き、好きと答えた理由の中に、「庵治石の作品がかっこいいから。」「高級で貴重な庵治石がとれるから。」と好きな理由に庵治石のことを具体的に書くことができていた。



資料① 【 児童のしてみたいこと 】



【 石割体験 】

1 (児童質問紙) 自ら進んで体験活動に取り組めたか。

指標 「①進んで取り組めた+②取り組めた」の合計



指標の達成に向けた実践

相手意識、目的意識をもつことが主体的な活動につながる。児童の「～したい。」という思いや願いを大事にして学習活動を展開し、児童の欲する体験活動を実現させる。

庵治の漁業を盛り上げよう (5学年)

庵治の水産物をアピールするためにちりめんやエビの販売、PR動画の作成

- 漁港の見学や漁師さんにインタビューし庵治の漁業の現状を捉え、課題設定に繋げる

庵治の漁港に水揚げの見学に

行ったり、漁師の方にインタビューし困っていることや苦勞を直接聞いたりした。児童は、庵治の現状と漁師の方の話から「庵治の漁業を盛り上げるためには、庵治の水産物をもっとたくさんの人に知ってもらったり、食べてもらったりする必要がある。」と課題意識をもつことができた。



【魚の水揚げ見学】

- 情報を発信する相手を自ら選択することで、相手意識を明確にもつ

この課題を解決するために、誰にどのような方法で情報を発信するのかをクラスで話し合った。相手については「自分たち」「香川県の人」「全国の人」「外国の人」と4つに整理し、この中から、自分が情報を発信したい相手を選び、その人たちに知ってもらう・食べてもらう方法を考えた。授業には地元の漁師さんにパートナーティーチャーとして来てもらい、児童にアドバイスをもらった。

庵治の水産物をもつ **香川県の人** が食べるために どうする?(方法や内容)

庵治の水産物についてのポスターをたくさん作って香川県内のお店に貼ってもらおう。(イオン、ゆめタウンなど)

庵治の水産物をもつ **外国人** が食べるために どうする?(方法や内容)

外国人観光客にパンフレットを渡す。「観光名所に置く」



- 様々な方法で発信するための教師の支援

教師は、児童の考えた方法 (YouTube ライブ配信や芸能人の出演依頼、水産物販売等) を実現するために、香川県水産課や庵治漁協組合と連携したり、知り合いの方に頼んだりと支援した。児童は自分たちの考えた方法が実現していくことで、進んで活動に取り組んでいた。



【庵治祭での水産物販売】



【YouTube ライブ配信】



【松本明子さんと TV でアピール】

1 (児童質問紙) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

指標 「①当てはまる+②どちらかといえば当てはまる」の合計



指標達成にむけた実践

庵治の現状を学び、自分たちにできることを考え、実践する。

(1) ハンセン病について学び、人権について考え、自分の生き方にいかそう (6学年)

庵治支所ギャラリーの活性化にむけて

入所者の方から差別や偏見による苦しみや悲しみ、それでも前を向いて生き抜く強さを学んだ。自分たちだけでなく、より多くの人にハンセン病の正しい知識を知ってもらいたい、差別や偏見をなくしていきたいという思いから、発信したい相手を児童が選択し、相手意識をもって内容を考えたり、発信方法を考えたりした。(保護者→庵治小のHP、地域の人→広報誌「あじ」やコミュニティーセンターでの文化展など) 庵治町でもハンセン病を正しく理解するパネル展をしていることを知り、見学に行った。その時、来客数が少ないという現状に気付き、庵治支所ギャラリーにもっとたくさんの人が来る方法を考えていこうと話し合った。ギャラリーに大島の風景やジオラマを展示したり、パンフレットを置いたりするのはどうかと考えた。この児童のアイデアを地域振興課の方に提案し、良い点や実現が難しい点などのアドバイスをもらったり、児童から地域振興課の方に質問したりと、活性化にむけて現実的に考える場となった。



【アイデアを発表、地域振興課の方からアドバイスをもらう】



【ギャラリーを見学】

(2) 発見！発信！庵治石の魅力！ (3学年)

庵治石の現状(後継者が少ない。石が前より使われなくなり、売れなくなった。庵治石に関わる人が増えて欲しい。庵治石の魅力を知ってほしい。)をもとに、児童は「庵治石・石職人さんの力になりたい。」と考え、世界中の人に庵治石のすごいところを知ってもらうために、PR動画を作成して発信しようとして話し合った。内容は、庵治石は希少性のある特別な石であることや庵治石で作れるもの(灯ろう、庵治石ガラス、芸術家さんの作品など)、庵治石の伝統工芸士さんのすごさなどである。作成した動画を職人さんに見てもらい感想を頂いた。また、庵治石の良さを県内外の方にも伝えたいという思いから、

庵治石のメモクリップを来校者に配った。

「自分たちで作ったの？すごいね、ありがとう。」「庵治石を初めて見た。きれいだね。」と反応を直接感じることもでき、児童は庵治石の魅力伝える活動ができた満足感をもてたようだ。



【PR動画の改善点の話し合い】



【庵治石のメモクリップをプレゼント】



相手意識・目的意識をもって発信し、その結果を検証して次時の活動に生かす

庵治の海からせかいの海へ～海ごみから自然を守ろう～ (4学年)

○ **環境問題、海岸清掃の時の注意点を伝えるために、庵治クリーン作戦で新聞配布**

海岸清掃のボランティア活動をしているアーキペラゴ森田さんと一緒に、地元の浜で海ごみ拾いを行い、ごみの種類や環境への影響、清掃時の注意点などを教えてもらった。教えて頂いたことをもとに、海ごみ新聞を作成し、庵治のクリーン作戦で地域の人に配布した。注射器やガラスに気を付けて、けがをしないように海岸清掃して欲しい、海ごみの影響を知って欲しいという願いを込めて配った。



【森田さんと海岸清掃】



【海ごみ新聞を配布】



【作成した海ごみ新聞】

○ **庵治クリーン作戦で地域の方の感想を検証し、次の活動を考え、実践する**

活動後の振り返りには、参加者が小さな子どもに「割れたビンや注射器はとったらいけないよ。」と言っているのを聞いてうれしかったと記述しており、自分たちの活動が役に立つことができた満足感をもてたようでした。クリーン作戦終了後、地域の人に感想を書いて頂いた。その中に、観光客がバーベキューをしたごみを置いて行って困るというものがあり、観光客が泊まる庵治観光ホテルにも新聞を置かせてもらおうと話し、実際に置かせて頂いた。

地域の方の感想

- 海ごみについて改めて考える機会となった。
- 小学生が地元の海岸清掃に参加してくれてうれしい。
- 観光客が浜にごみを置いていくので困る。

庵治観光ホテルでも啓発!
 庵治観光ホテル
 フロント付近に置いてあります!

児童の感想

- 地域の方の役に立てた!
- 観光客にも海ごみ問題を知って欲しい。
- もっとたくさんの人に伝えたい。

ごみを捨てる人が減るといいな。



【海ごみで作成した楽器を庵治祭で演奏】

また、海岸清掃にきている地域の人たちは、環境問題に関心がある人なので、もっとたくさんの地域の人たちに海ごみ問題を知って欲しいということから、庵治祭でも学んだことを発表した。庵治祭では、拾った海ごみで楽器を作成して演奏し、演奏中はスライドを流し3Rや海ごみで困っている生き物を紹介した。庵治の海がもっときれいになるように自分たちにできることは、ごみを見つけたらごみ箱に入れる、物を大切に使いごみ自体を減らす、海岸清掃をすると考え発信した。

IV 研究の成果と課題

成果と課題

○ 実感をともなって庵治が好きという児童の増加

アンケートでの庵治が好きですかという項目で、令和4年度5月94%→令和4年度2月96%→令和5年度6月97%→令和5年度11月98%と増加している。研究を始めた令和4年度2月以降、指標を選んだ理由には、「魚が美味しい。オリーブハマチがあるから。」「きれいな庵治石がとれるから。」と具体的な庵治の良さを記述していることから、実感をもって庵治を好きになっていると考える。

○ 庵治への愛着、地域貢献への満足感・達成感の高まり

児童の声からは「将来の夢は漁師さん!」「庵治のお祭りや獅子舞も大好き。大人になったらおじいちゃんみたいに子どもたちに伝えたい。」とあった。地域の人や関わってくれた人からは「子どもたちが庵治石のことを真剣に考えてくれてうれしい。(石材関係者)」「大島のことを伝えるための子どもたちのアイデアがいい。(地域振興課の方)」「地域の海岸清掃で海ごみ新聞を配布し、啓発している活動がすばらしい。(アーキペラゴ森田さん)」と感想を頂き、子どもたちの活動が意味付けされ、満足感や達成感も高まったと考える。

○ 研究大会のアンケートより

・系統立っており、6年間で身に付けさせたい力が明確であった。地域の「人、もの、こと」に丁寧に目を向け地に足のついた指導内容で素晴らしいと感じた。

・学校全体がひとつとなって、庵治を大切にし、未来へつなぐ児童という目標に向かうことがよく分かる。ひとつにしぼって重点的に取り組むこと、そして、そのために体験の場をたくさん準備する積極的な姿勢を感じ、自分の学校にも生かしたいと思った。

・これまでの学びから漁業の課題を見つけ、他人事ではなく自分たちにできることを考えるという活動が、より主体的な学習につながっていると思った。相手意識を大切にしているので、具体的な方法を考えることができていた。考えたことを友だちや先生だけでなく、漁業に携わる方に聞いてもらい、アドバイスをもらうことで、真実味が増していた。

・子どもたちの活動が庵治町に還元されるとさらに郷土愛ややりがいにつながると感じた。取り組んでいくうちに自分→周りの人のことに意識がシフトしていくのかも。

・会場に着いて、子どもたちが目を輝かせながら手渡してくれた庵治石が子どもたちの成長を象徴していたように思う。子どもたちの中の誰かが庵治石を継ぎ、みんなが将来庵治に力をくれると思う。

・3年生らしい前向きな活気のもと、地域の庵治石に関わる伝統工芸士を誇らしく見上げるまなざしと自分達にできることを志し高く望む姿勢は微笑ましくまぶしい輝きを放っていた。

・探究のプロセスを意識した単元構成がすばらしかった。ダイナミックな取り組みが、子どもたちの学びを鍛え、大人や地域を巻き込んでいくのだと感じた。廊下で、木村剛史さんのお師匠さんと少しお話ができた。庵治の石や携わる人の魅力を紹介する子どもたちの発表を目を細めて、嬉しそうに聞いていらっしやっただけの様子が印象的だった。子どもたちの学びが、大人の心をつかみ、巻き込んでいくのを肌で感じた。大変すばらしい実践を見させていただき、ありがとうございました。

● 中学校とのつながりは？

庵治が好きという取り組みを小学校が行っていることを、中学校や地域の方にも伝え意識してもらっている。庵治町では、ハンセン病から学ぶ学習に小学校6年生、中学1年、3年で取り組んでいる。人権・同和教育研修会では、お互いの情報交換ができています。小中合同での庵治祭では、小学校での生活・総合の取り組みを中学校に伝える場となった。中学校でも流正之美術館に見学に行っているため、3年生での庵治石の学習とつなぐなど、お互いの具体的な取り組みを教員間で情報交換し、児童生徒の意識がつながるような学習展開ができればと考える。